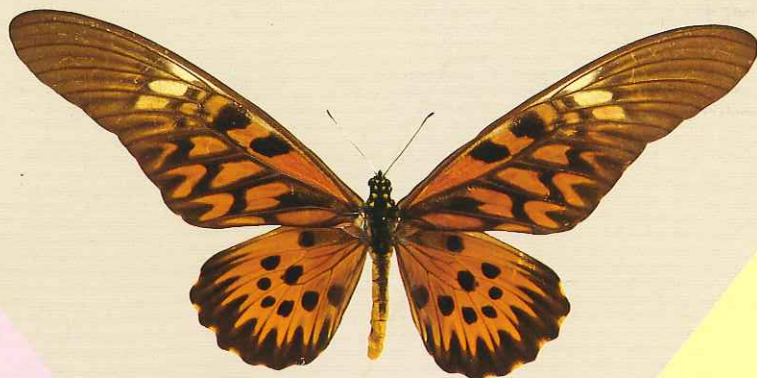
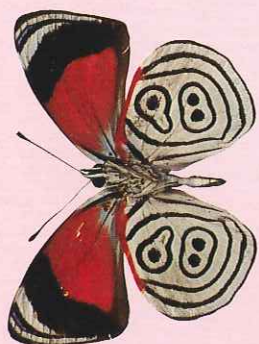


塚田コレクション

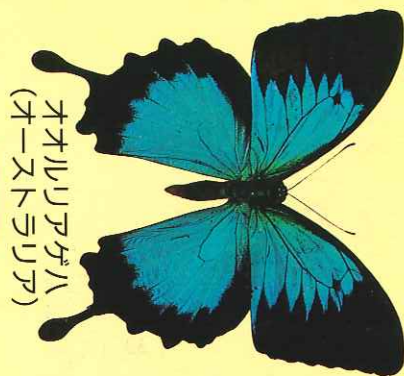
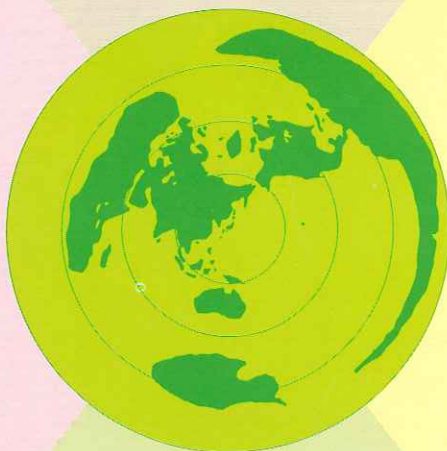
世界のちょう展 (1989.7月20日~9月30日)



ドルーリーオオアゲハ
(アフリカ)



ウラムジタテハ
(コロンビア)



オオルリアゲハ
(ニューギニア)

塚田コレクション 「世界のちょう展」開催にあたって

蝶は美しく、人の目につき、昔から親しまれてきた昆虫です。わが国は国土の狭い割りには蝶の種類が豊富で、235種が確認されています。これは日本列島が南北に細長く横たわっており、寒地や暖地の蝶が生息しているからです。ところが、世界には、なんと約1万8,000種もの蝶がいます。ヒマラヤの高山から熱帯地域まで、いろいろな珍しい蝶がいますが、まだまだ人に知られない蝶もたくさんいるだろうと思われまます。

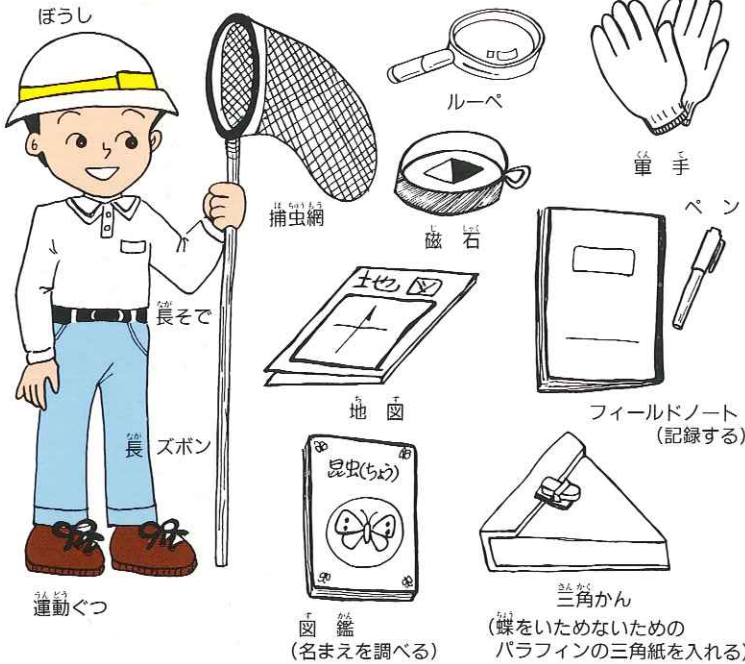
このたび三島市郷土館が企画した「世界のちょう展」は、三島市泉町在住の医師、塚田眞氏が長年にわたり集められた世界各地の蝶のコレクションのなかから、特に美しいもの、形態の変わったものを選んで展示しました。これらの蝶の魅力は、かならず皆様の心を捕えるものと思います。このことが、昆虫についての知識を広めると共に、自然を大切にすることを高める一助となれば幸いです。

三島市郷土館

チョウの採集と標本作り

さいしゅう ひょうほん

服そうと採集用具



身近で採集できるアゲハチョウのなかま

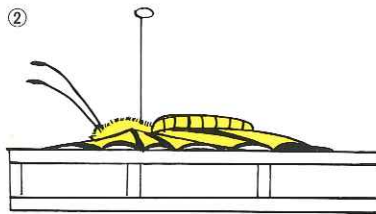
チョウのとり方のポイント

- いろいろな花が咲いている場所 (アゲハチョウ・シロチョウ・ヒョウモンチョウ)
 - 木のしるがでている場所 (タテハチョウ・ジャノメチョウ)
 - 湿地 — 水を吸いにきます。
 - 蝶道 — アゲハチョウのなかまは、谷間や林のへりなどのきまったコースを飛びます。
 - 林の中のひらけた場所 (ミドリシジミ類)
 - 丘や山の頂上 (キアゲハ・ツマグロヒョウモン)
- 採集した蝶は胸を軽くおさえてころし、三角紙に包んで持って帰ったら、**展翅板**を使って羽をひろげ**標本**にします。

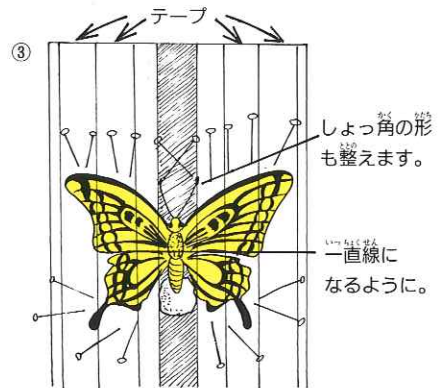
標本のつくり方と保存の方法



ピンは、真上からまっすぐにさします。



展翅板のみぞにさし、蝶の体の高さをあわせませす。



はみ出した羽の部分もテープで腹が下がらないように下に綿などをつめます。おおいませす。

標本につける記録用紙(ラベル)には、採集した場所、年月日、採集した人の名を必ず入れます。

標本箱は、しっかりふたのできるものを使い、中に

防虫剤を入れ、日光のあたらない、乾燥したところにしまひませす。

(参考：ジュニア図鑑「ちょう」保育社)

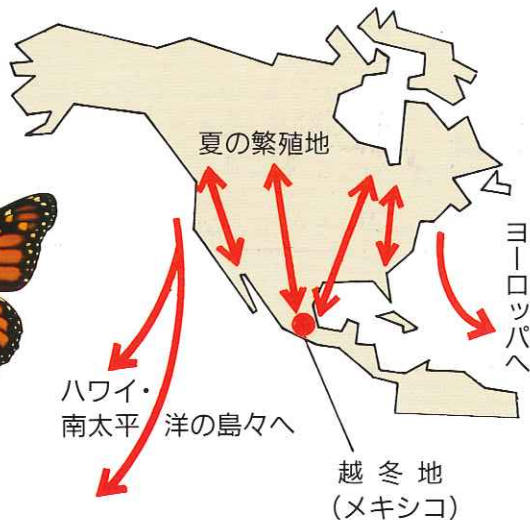
ちんちょう きちょう
世界の珍蝶・奇蝶

海を渡る蝶 —オオカバマダラ—

北アメリカのオオカバマダラは、季節によって、定期的な渡りをする蝶です。秋になると3000万頭ものオオカバマダラの集団が暖かい越冬地を求めて何千キロも移動します。メキシコのミチョワカン州の標高3000メートル地点で、大集団をつくって越冬することは、特に有名です。



オオカバマダラ



そっくりさん —フクロウチョウ—



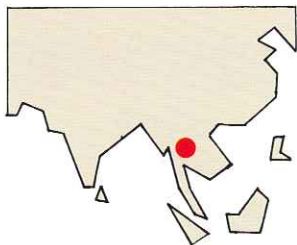
フクロウチョウ
(裏・さかさ)



蝶の大敵である小鳥やとかげはフクロウや鷹などの大きな目玉が苦手です。蝶のなかには敵から種を守るために、目玉模様を生かして「おどかし」をする蝶がいます。フクロウチョウを裏返してさかさにすると、フクロウのそっくりさんになります。

なぞの多い —シボリアゲハ—

シボリアゲハ属は、ヒマラヤ、タイ、中国の標高1200~2500メートル山地でみつかります。日本のギフチョウやヒメギフチョウにも似ているところから、ギフチョウ属とも関係があると考えられますが、幼虫のことや成虫の習性など未知のことが多く、謎の蝶の一つとされます。



シボリアゲハ
(タイ)

企画展：塚田コレクション

「世界のちょう展」

三島市郷土館

〒411 三島市一番町19-3

TEL 0559-71-8228

新 北 区 の チ ョ ウ

北アメリカ大陸には旧北区との共通の属や種類が多くみられ旧北区の延長とも考えられます。ウスバシロチョウ、モンキチョウ、ヒョウモンチョウ、ベニヒカゲ属などがそのよい例です。これはかつてシベリアとアラスカが地続きであったことを物語っております。

アリゾナ、カリフォルニア、フロリダ等の南部までくると新熱帯区との共通の種が現れはじめ、旧北区のものと関係のあるチョウの姿がしだいに消えてゆきます。

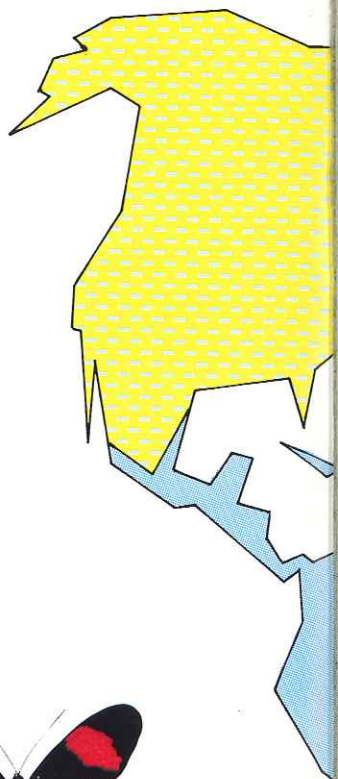


ツヤアカギンボシ
ヒョウモン
(北米)

新 熱 帯 区 の チ ョ ウ

南アメリカ大陸はチョウの宝庫とよく言われるように実に種類数が多く、世界のチョウの約半分の種類をみることができます。なかでも雄大なアマゾン川流域を中心とする大熱帯降雨林のなかにはさまざまな熱帯の美しいチョウが乱舞しています。

金属性の光沢をもったきらびやかな色彩をしたものが多いのもこの大陸の一つの特徴ですが、モルフォチョウはその中で最も代表的なものと言えるでしょう。



ナルキサスマイロタテハ
(ブラジル)



タイヨウチョウ
(ブラジル)



メネラウスモルフォ
(ブラジル)



ツマベニヤマキチョウ
(アマゾン・ブラジル)



アマリリスベニモンドクチョウ
(ペルー)



ミイロシジミタテハ
(ペルー)



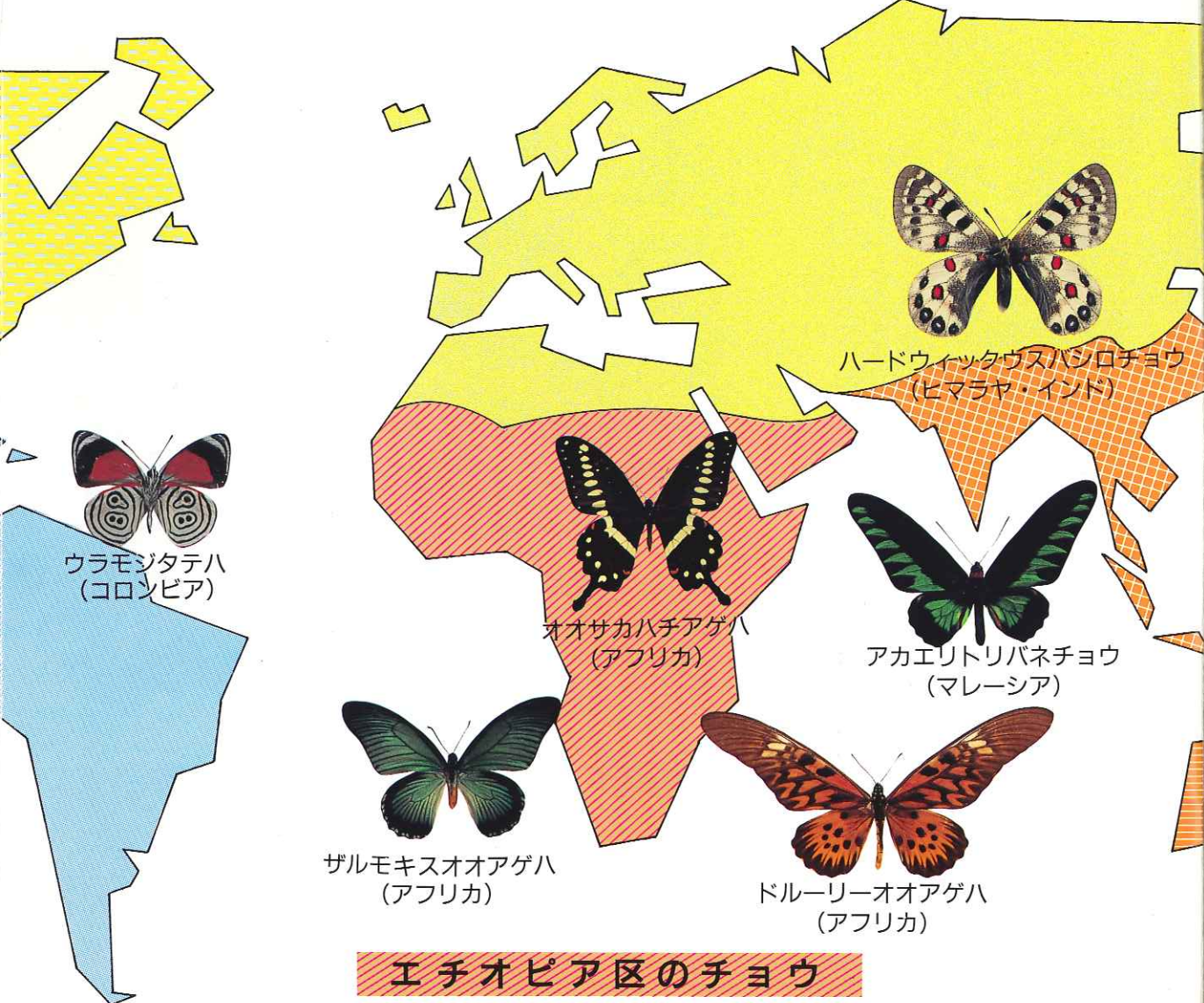
ルリオピコンムラサキ
(ペルー)



ミツボシタテハ
(ペルー)

世界のチョウの分布図

世界のチョウの分布を動物地理学的に分けると、旧北区、新北區、東洋区、オーストラリア区、エチオピア区、新熱帯区の六つの地区に大別されます。旧北区と新北區を一つにして全北区、また東洋区とオーストラリア区を一つにしてインド・オーストラリア区とすることもあります。



エチオピア区のチョウ

広大なアフリカ大陸の大部分は熱帯圏に入り密林があり、草原が広がりチョウの種類は豊かですが、他の熱帯地域のチョウに比べて派手な色調のチョウは少なく、特に南アメリカのチョウにみるような、きらびやかな色彩をしたものはいません。一般にしぶい重厚な感じのものが多く、これはアフリカのチョウの一つの特色ともいえます。

アゲハチョウ類が少なく、特に熱帯地方に多いジャコウアゲハ類がアフリカ大陸には全く見られず、マダガスカル島に唯一種いるだけです。

ボカシタテハ属、ヒイロタテハ属はこの地区の特産種であり、またフタオチョウ属、タテハモドキ属がこの地域で栄え多くの種類をみることができます。



アポロウスバシロ
チョウ
(ヨーロッパ)

旧北区 の チョウ

ヨーロッパからアジア大陸北部、日本列島へと続く旧北区と呼ばれるこの地域には熱帯地方にみられるような派手な色をしたものや、変わった形をしたものはいませんが、清楚な感じのもの、優雅な色彩をしたものがいろいろといます。なかでも氷河期の生き残りと言われるウスバシロチョウの仲間はこの地区の最も代表的なもので、中央アジアの高地帯を中心に全地域に広く分布しています。また、寒冷な北極圏にまで分布をのびしている小型のヒョウモンチョウ、ベニヒカゲ、タカネヒカゲなどもこの地区の代表的なチョウでしょう。

日本の国蝶であるオオムラサキはこの地区では数少ない大型の美麗種で世界に誇ることのできるチョウの一つです。

東洋区 の チョウ

熱帯圏に属する東南アジア大陸とその南にあるフィリッピン、ボルネオ、ジャワ、スマトラなどの島々は高温多湿でさまざまな植物がよく生育繁茂し、昆虫類の息に適しており種類も非常に豊富です。

キシタアゲハ、アゲハチョウ科の多くの属、ツマベニチョウ、オオゴマダラ、ムラサキマダラ、ワモンチョウなどがこの地域の代表的なチョウですが、なかでもアゲハチョウ科の巨大な種類が多いことが大きな特徴と言えます。



シボリアアゲハ
(タイ)



ツマベニチョウ
(スラウェシ・インドネシア)

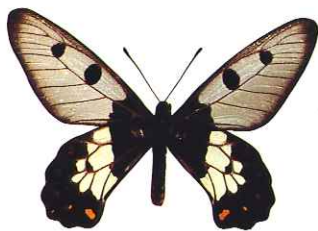


オオルリオピアアゲハ
(スラウェシ・インドネシア)

オーストラリア区 の チョウ

ニューギニア、オーストラリア北部の熱帯圏には多くの美しいチョウがみられますが、特筆すべきはニューギニアを中心に分布しているトリバネアゲハのグループでしょう。また羽の裏面の色彩が美しく、模様が複雑で変化にとんでいるカザリシロチョウはニューギニア本島の高地帯に数多くの種類がみられ100種近く知られています。

この他にウスバジャコウアゲハ、ニセツバメアゲハ、メダマチョウなどこの地域特産のチョウが沢山います。



ウスバジャコウアゲハ
(オーストラリア)



オオカバマダラ
(オーストラリア)